

【今年度の結果と取組みについて】

○●国語●○

(領域ごと)

- | | |
|------------------|-------------|
| ①言葉の特徴や使い方に関する事項 | 概ね良好な結果であった |
| ②情報の扱い方に関する事項 | 概ね良好な結果であった |
| ③話すこと・聞くこと | 概ね良好な結果であった |
| ④書くこと | 概ね良好な結果であった |
| ⑤読むこと | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|---------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | やや課題が残る結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- 2 (四) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる問題の正答率が低い。
- 3 (二) 目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる問題の正答率が低い。
- 3 (三) 日常よく使われる敬語を理解しているかどうかを見る問題の無解答率が高い。

分析

全体的に「概ね良好な結果」であった。

特に言葉の特徴や使い方に関する問題の正答率が高い。ことば集めなど語彙を増やす取組みや短文づくりをはじめ、すべての教科や日常生活において既習漢字を文の中で正しく使う習慣や語彙の獲得を意識した授業改善の結果であると考えられる。引き続き取組みを継続していく。

読むことを選択式の問題の正答率が高い。一方で、自分の意見を簡潔にまとめ、条件に合うように記述することに課題が見られる。文章の中で、係る文節と受ける文節の関係や指示代名詞が何を示しているか意識するなど、文を読解するうえで基礎となる力を意識する取組みの継続が必要である。

目的や意図に応じて、理由を明確にししながら自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することは、今後身に付けていくべきスキルである。国語科の授業だけでなく、すべての教科でリーディングスキル（文章を正しく読み取る力）を意識した取組みを進める必要がある。リーディングスキルを高めることで、基礎的な読解力を身に付け、必要な情報を取捨選択し、自分の考えを簡潔に説明できる力を養うことが必要である。

〇●算数●〇

(領域ごと)

- | | |
|---------|---------------|
| ①数と計算 | 概ね良好な結果であった |
| ②図形 | 概ね良好な結果であった |
| ③変化と関係 | 概ね良好な結果であった |
| ④データの活用 | やや課題が残る結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率) 概ね良好な結果であった

(その他)

- 2 (1) 台形の意味や性質について理解して、図形を選択する問題の正答率が低い。
- 4 (2) 言葉の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取る問題の正答率が低い。
- 4 (4) 二次元の表から、条件に合う数を読み取る問題の無解答率が高い。

分析

全体的に「概ね良好な結果」であった。

特に変化と関係領域の正答率が高い。伴って変わる二つの数量の比例関係などについて概ね理解していると言える。

しかし、データの活用領域の正答率が低い。表やグラフから違いを見つけること、必要な条件に合う数を読み取ることなどに課題がある。この原因として、グラフの読み方を理解していないことと、条件を正しく読み取れていないことなどが考えられる。グラフの表題や棒グラフや折れ線グラフなどの読み方の指導を丁寧に行い、普段の授業の中でグラフから考えられることや比較したりするなど、実践的活動が必要であると考えられる。

また、問題の後半になるにつれて無解答率が増えている。限られた時間の中で、問題文から必要な情報を読み取り、既習知識を使って正解を導くための手段や方法を自分なりの言葉で説明できる力を身に付けさせる必要がある。算数科でもリーディングスキルの向上を目指した取組みが必要であると考えられる。基礎基本の定着は勿論、「なぜそうなるのか」「どんな場面で必要か」を考えることのできる課題設定やふりかえりを行い、思考力、表現力、判断力等を育成できるような「生きた授業」を心掛けたい。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

国語、算数ともに平成21～27年度は全国平均より上回っているが、平成28年度より全国平均を下回る年度が続いている。

算数、国語共に記述式の問題については、後半になるにつれ無解答が増えている。これは、問いの意図を迅速、かつ正確に読み取る力（リーディングスキル）の弱さから、問題の意味を理解するまでに時間がかかってしまっていること。それに加え、要点を簡潔に短くまとめる力（要約する力）に課題があり、最後のテスト問題まで時間内に到達できなくなっていることが考えられる。

これを受けて、教科横断的にあらゆる活動において考えを深め、相手に自分の考えを端的に分かりやすく伝える場を多く設ける必要があると考える。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

平成19年度は、エンパワー層が少なく学力差がはっきりとしていた。その後はどの層も多少の増減はあるがエンパワー層が減少しており、学力差が縮まってきている。しかし全国平均と比べるとまだエンパワー層の割合が多いので、基礎学力定着に向けていっそうの努力が必要と思われる。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

授業づくり ～リーディングスキルを意識した授業改善～

- ・発問の工夫：学習課題を明確にし、児童と共有する
- ・読む力（考える読み）の強化、語彙力の強化を図る：「言葉の宝石箱」（言葉集め）の掲示する
- ・係り受け解析の強化を図る：基本的な文章構造を意識させるための掲示物を全学級に設置
- ・メタ認知の強化：振り返りを習慣化「何をどう学んだか」
- ・MIMの取り組み

今までの山手台小学校の取組みの継続

- ・授業の中で、交流を通し児童どうしのつながり力の向上を図る。：ホワイトボードを活用し、子どもの思考力を可視化する
- ・問題解決学習を推進する
- ・授業の視覚化、構造化、協働化の定着を意識する
- ・効果的なタブレットを活用する
- ・山手台スタンダード、100点筆箱、学習のルールの定着を意識し、授業の規律を整える
- ・校内研修会を定期的に行い、教職員の方向性をそろえる

基礎的な学力の育成

- ・朝学習を充実させる：なかよし学びタイム
- ・スクールサポーターと連携し、個に応じたきめ細かな指導、学力の向上を図る。
- ・読書カードによる読書活動を記録化し、いつでも把握できるようにする
- ・中央図書館と連携し、読み聞かせなどにより意欲的に読書に取り組めるようにする。

家庭との連携

- ・学習・生活アップ週間を実施する
- ・家庭学習の手引き、自主学習の定着を図る：音読カードや九九カードの取組み

小中連携の強化

- ・昨年度からの継続で6年生と北陵中学校2年生との交流を行う。
- ・6年生クラブ見学を行う
- ・北陵中学校区合同研修会を実施し、ブロックの小中学校が共通認識の下で共通実践を行う